

補遺編

中野谷原遺跡出土土器付着炭化物のAMS ¹⁴C年代測定結果

小田寛貴(名古屋大学年代測定総合研究センター)

山本直人(名古屋大学大学院文学研究科)

<分析資料>

弥生時代中期の土器

1 (資料 10NYH3) D - 16号土坑下層出土の甕胴下半部 外面付着炭化物
(第115図11と同一個体)

2 (資料 10NYH4) D - 16号土坑出土の甕胴上半部 外面付着炭化物
(第116図20と同一個体)

<¹⁴C年代測定結果>

資料	回数	¹⁴ C年代 [BP]	較正年代 [cal AD] *	測定 code
10NYH3	1	2286 ± 34	BC396(386)363,270()262	NUTA2-1387
	2	2242 ± 40	BC405(399)390	
	3	2320 ± 32	BC401(395)385	
	4	2361 ± 35	BC407(401)396	NUTA2-1517
	5	2358 ± 42	BC408(401)394	
	6	2396 ± 41	BC517()459,453()437,432()416,415(407)400	
av.		2344 ± 15	BC402(399)396	
10NYH4	1	2373 ± 35	BC410(403)397	NUTA2-1518
	2	2401 ± 42	BC536()534,519(408)401	
	3	2330 ± 48	BC404(397)384	
	av.		2368 ± 24	BC407(402)398

*) 括弧内の数値は、¹⁴C年代の中央値を較正した結果であり、
括弧外の数値は¹⁴C年代の誤差の両限を較正した結果である。

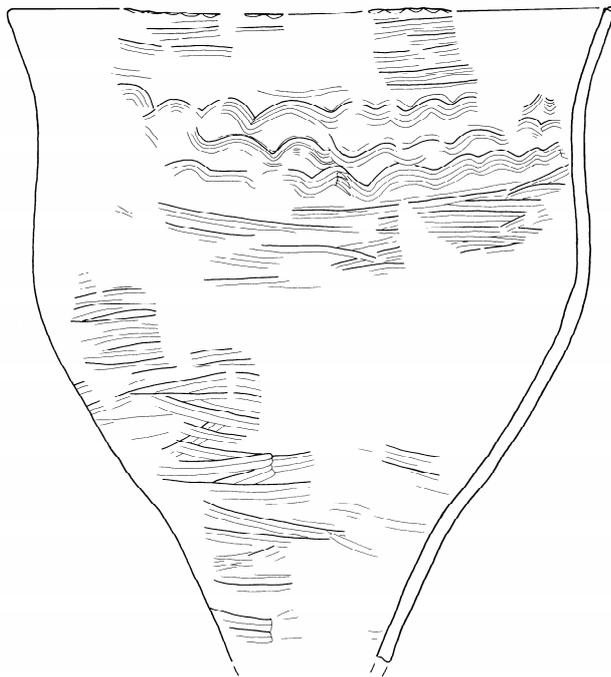
付記

なお、測定結果については、小田寛貴・山本直人 2002 「弥生土器・古式土師器のAMS ¹⁴C年代」『名古屋大学加速器質量分析計業実績報告書』 名古屋大学年代測定総合研究センター(山本直人 2002 『加速器質量分析放射性炭素年代測定法による縄文時代集落の存続期間に関する研究』所収)で報告されている結果をそのまま掲載した。詳細は報告書を参照されたい。

また、小田寛貴・山本直人両氏には年代測定をしていただくとともに、多くのご助言をいただきました。深く感謝する次第です(井上)。



写真1 測定資料 (左: 10NYH3 右: 10HYH4)



10NYH3



10NYH4



第1図 測定資料実測図